

裏磐梯だより



磐梯朝日国立公園
裏磐梯ビジターセンター



No.74
2015年11月

小さな世界 ㊦

夏の後半から薄紫色の小さい花が足元に咲き、夏の終わり頃からツンツ!と尖った形に変わる。秋になり涼しい風が流れる頃、ツンツ!とした根元からクルン!と丸まり、小さな種をパラッと飛ばし、冬を迎える。

写真の膨らみに種がありクルン!となるのだが、その後の様子がまるで神輿のように見える事から、「ミコシグサ」と呼ばれる。

漢字では「現の証拠」。根、花、茎、葉などを煎じて、お茶などとして楽しむことができ、整腸薬として「本当に効くこと」からそう呼ばれる。飲みすぎても問題がないことなどもあり「医者泣かせ」とも。江戸時代よりさらに古くは、飲むと効果がすぐあることから「タチマチ草」とも呼ばれていた。呼び名からも感じられるように小さいながら、見た目だけでなく内面も愛されるゲンノショウコに多少の憧れを抱きます。

(「ゲンノショウコ」 2015年9月12日)

20 年 月 日
来館記念スタンプをどうぞ